

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

北海道大学病院 初期臨床研修医 高畑 明日香

研修時期 平成29年4月

本年度より北海道大学病院、鹿児島大学病院それぞれの目玉である地域医療研修の交換派遣制度が始まり、第1号として出水に参りました。鹿児島県に来るのも初めて、北海道外で生活したのも初めてでしたが、指導医の先生、スタッフの皆様、そして出水の地域の方々のおかげでとても充実した1ヶ月を過ごすことができました。

現行の医師臨床研修制度では全医師に2年間の初期臨床研修が義務付けられており、その中で2年目の1~3ヶ月間、地域医療の研修が必修となっています。通常では北海道大学病院の地域医療研修では道内の診療所で1ヶ月程度勤務することになっております。この度、北海道大学病院と鹿児島大学病院が提携して一部の研修医を交換して派遣する制度が始まり、今年度は北海道大学より3名が鹿児島本土で1ヶ月、離島で1ヶ月の研修を行う予定です。

全く土地勘のない鹿児島での研修ということで、研修先の選択には迷いましたが、研修医の声などを読ませていただき、出水を選ばせていただきました。

出水での研修に際して2つの目標を建てました。ひとつはかかりつけ医としての診療所の機能を学ぶこと、もうひとつはコメディカルと呼ばれる医師以外の医療職について研修し、求められる医師像を学ぶことです。

診療所の外来では医師1人で何人も患者さんを診療しており、1人の患者さんにかかる時間は限られております。全ての方に均等に時間をかけることはできず、リスクの大きさを考え時間配分をする必要があることに気づきました。野田診療所、高尾野診療所では一般的な検査はほとんど行うことができ、ありがたかったです。一方往診では、簡単には来院できない状態の患者さんの診察が中心であり、できる検査は限られており、より丁寧な診察を要する反面、たくさんの患者さんを診察しないと採算が合わず効率求められることが分かりました。

出水総合医療センターでは消化器内科での研修を行う傍ら、様々な医療職とのマンツーマンの研修が行われており、保健センターでの研修も行われております。彼らに1年めで持った様々な疑問や、実際の症例で自分の判断についてどう思うか直接聞くことができ、より良い診療を行うためのヒントをたくさんいただきました。診察の質や患者さんの満足度の向上のため、より効果的に多職種と連携していきたいと思えます。

最後になりましたが、出水や近郊にはたくさんの見どころがありました。特に武家屋敷のような歴史的な街並みは北海道では見ることはできません。すっかり気に入って、2回も訪問してしまいました。東光山、特攻碑公園、ツル、長島花フェスタ、曾木の滝、AZあくねなどの出水や出水近郊の名所、熊本の水俣病資料館、球泉洞や阿蘇山などにも足を伸ばすことができ大変楽しい研修でした。このような機会を作ってください、関係各位には心から感謝しております。ありがとうございました。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 中村 毅
研修時期 平成29年5月

鹿児島大学病院における地域医療研修として5月にお世話になりました、研修医2年目の中村 毅（ナカムラ タケシ）と申します。1ヶ月間という限られた期間の中で、出水総合医療センターを中心に、野田診療所・高尾野診療所・出水保健センター・上場診療所にて研修させて頂きました。お世話になりました関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

私は長崎県出身で、高校までは長崎県、大学から鹿児島の地にやってきました。鹿児島での生活も8年目に突入しましたが、出水には一度も足を踏み入れたことがありませんでした。初めての出水ということもありまして、研修は勿論ですが、出水での生活も楽しみにしていました。出水は鹿児島市よりもやや涼しくとても生活しやすい場所でした。

研修についてですが、まずは4日ずつ野田・高尾野診療所で研修させて頂きました。野田診療所では、今までの数倍のエコー検査を実際にさせて頂き、中身の濃い研修でした。高尾野診療所では、今まで経験したことのなかった慢性期の外来を経験でき、自分に足りない技術を見直すいい機会となりました。8日間という短い研修でしたが、スキルアップすることができた非常に有意義な研修でした。

出水保健センターでは、母子健康相談、3歳児検診を見学させて頂きました。親御さんたちは、私が考えている以上に様々な悩みを抱えて子育てをされていることがわかったと同時に、保健所の職員の方々がその悩みに真摯に向き合っていることに感服しました。

院内研修では脳神経外科研修を中心に、看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・地域医療連携などの講義や体験をさせて頂きました。脳血管障害の急性期～慢性期の治療、リハビリ、退院支援等クリニカルパスを有効に使用したチーム医療を直に体験することができ非常に勉強になる研修でした。また、各部署の講義・体験では改めて他職種の実際の現場を知ることができ、今後のチーム医療に活かすことのできる非常に有意義な研修でした。

上場診療所ではへき地医療を経験することが出来ました。検査器具が限られていることもあり、問診と身体診察の重要性を再確認できました。また、受診形態の多様性を目の当たりにすることができ、医療にも柔軟性が必要であるということも感じる事ができました。また、へき地の高齢者の方は元気な方が多い印象で、その裏には陰ながら努力されている医療関係者が存在することを知り、感動を覚えました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導して下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。この1ヶ月の経験をこれからの医師人生に活かせるようこれからも頑張っていきたいと思っております。

九州大学病院 初期臨床研修医 市丸 壽姫
研修時期 平成29年6月

6月に地域医療研修をさせて頂きました、研修医2年目の市丸壽姫と申します。

昨年度出水総合医療センターで研修された先生方に勧められて、こちらでの研修を選択させて頂きました。1ヶ月という短い期間でしたが、とても充実した日々を送ることが出来ました。

出水市には今まで来たことがなかったため、今回の研修を楽しみにしていました。出水では、道を歩いていると小学生や中学生が自分から挨拶してきたことに驚きました。また、梅雨の季節だったため、色とりどりの紫陽花を見ながら町歩きができ、心癒された1ヶ月間でした。

野田診療所ではエコー、内視鏡などの検査を内村先生から手取り足取り指導して頂きました。また、外来診療のコツや見落としをしないためのポイントなどを教えて頂きました。高尾野診療所では慢性疾患の外来を経験させて頂きました。大学病院では病棟業務が中心だったため、初めての外来に戸惑いながらも西元寺先生のサポートのもと、なんとか外来を回しました。予約外で外傷の患者さんが来院することもあり、余裕を持って効率よく外来を回さなければいけないと痛感しました。どちらの診療所も紙カルテであり、紙カルテでの診療は初めてで貴重な体験でした。

上場診療所では僻地医療を垣間見ました。上場での診療は月に2回しかないこと、すぐに検査が出来る環境ではないこと等、当たり前と思っていた医療環境が当たり前ではないということを感じました。また、そういった環境では1回1回の診療を大事にし、何か体調に変化が起きていないか見逃さないようにすることがより重要だと感じました。

院内では循環器内科を中心に、医療安全管理、地域医療連携、看護部、薬剤部、臨床工学科、臨床検査科、リハビリテーション科で研修させて頂きました。色々なことを丁寧に教えて頂きました。循環器内科では楠元先生、則松先生に大変お世話になりました。慢性心不全増悪や不整脈など循環器内科以外の診療科でも遭遇することへの基本的な対応を学びました。PCI、ペースメーカー留置、アブレーションも経験することが出来ました。

病理部では標本の切り出しをさせて頂いたこと、回復期病棟では患者さんの回復度に合わせて看護・リハビリを変えていく必要がある、ということが特に印象に残りました。

保健センターでは、妊娠・出産・子育てで悩む人々を孤立させないように、困っている人を早期発見・早期介入し、地域全体で母子をサポートしていく体制を学びました。母子保健も多職種が関わっており、スタッフの皆さんは悩みを持つ方々に優しく温かく接しておられたのが印象的でした。

最後になりましたが、お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導して下さいました方々に深く感謝申し上げます。風邪を引いてしまって体調が悪い時に心配して頂き本当にありがとうございました。大学病院に戻りましたら、私も後輩達に出水総合医療センターでの研修を勧めようと思います。

北九州市立医療センター 初期臨床研修医 近藤 萌
研修時期 平成29年7月

北九州市立医療センター研修医2年目の近藤萌と申します。私は2017年7月の1か月間、地域医療研修として、出水市で研修させて頂きました。

鹿児島の地に来た日は慣れない環境にとっても緊張しましたが、のどかな風景とあたたかな人柄に囲まれて、とても充実した1か月を過ごすことが出来ました。

最初の2週間は野田診療所、高尾野診療所、後半の2週間は出水総合医療センターで研修を行いました。

診療所では、診察時間も医療資源も限られていましたが、そのような状況の中でも問診・身体診察を行い、可能な治療・処置、必要に応じて他の医療機関への連絡を取るといった柔軟な診療を行うことの難しさを感じました。また、一人ひとりの生活環境や家庭状況を把握し、今後より良く生活が出来るような環境を整備する必要性もあることを知りました。

出水総合医療センターでは、外科をはじめ、薬剤科、臨床工学科、看護部、医療安全管理室、感染管理室、地域医療連携室、リハビリテーション技術科、臨床検査科といった多職種の方々との交流を通して、医療センターの出水市における役割を感じる事が出来ました。

出水保健センターの研修では、地域の中で保健業務が果たす役割を見ることができました。そして、保健センターに来られた方が、笑顔で帰られて行くのがとても印象的でした。

地域医療研修を通して、限られた医療資源の中での診療、様々な健康問題を抱えた患者さんを横断的に診ることの重要性および難しさを、実際に患者さんと接する中で学びました。そのためにも、患者さんが私たち医療従事者に変化や意見を言いやすいような状況、そして対応するための知識の蓄積が必要だと痛感しました。また、チーム医療の重要性を強く感じるとともに、今後も積極的なコミュニケーションを心がけようと思います。

この1か月間では普段目にする事のない、地域医療の現場を経験することができ、本当に多くのことを学びました。

お忙しい中、ご指導くださいました先生方をはじめ、関係者の方々、そして診察させていただいた患者さんに深く感謝申し上げます。ここで学んだことを活かして、今後も精進していきたいと思っております。1か月間、本当にありがとうございました。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 菊野 秀彦
研修時期 平成29年8月

私は鹿児島大学病院初期研修医2年目の菊野秀彦と申します。

2017年8月の1か月間、地域医療の一環としまして、出水総合医療センターや関連施設で研修させて頂きました。

消化器内科を中心とした出水総合医療センターでの院内研修、関連施設である野田診療所、高尾野診療所、僻地医療として上場診療所、地域保健として出水保健センターで研修を行いました。

野田診療所では、各種エコーや急患の問診・身体診察などをさせて頂きました。外来診療でお忙しい中、エコー検査の手技や重要な所見などを丁寧に教えて頂き大変勉強になりました。また、往診では、病状や社会的背景のため病院への受診が困難な患者さんの診療を見学させて頂き、地域医療における在宅医療の必要性を垣間見ることが出来ました。

高尾野診療所では、慢性疾患のある患者さんに対する外来診療を、実際に経験させて頂きました。定期的な診察を行う中で、患者さんの訴えから適切な診断・治療を選択し、時に他の医療機関に紹介する診療の流れは、大学病院では中々見る機会がなく勉強になりました。

また、各診療所では、患者さんとの人間関係が非常に親密であり、会話の内容が日常生活に密着していたことが印象的でした。患者さんからの信頼も厚く、人情味溢れた医療を感じました。

院内研修では、上部消化管内視鏡を御指導頂き、他にも PTGBD や食道内ステント留置などの手技の見学もさせて頂きました。また、当科の先生方は、消化器に限らない疾患の患者さんを担当されており、地域医療では専門に縛られない臨床能力が必要であることを知りました。

院内では、その他にも看護部、医療安全管理、地域医療連携、臨床検査科、臨床工学科、リハビリテーション技術科、薬剤科の方々からレクチャーをしていただき、普段学ぶ機会があまりない多職種の方の仕事内容や、実際の医療現場における医師との連携などに関して学ぶことができました。

今回の地域医療研修を通じて、限られた医療資源の下で最良の医療を提供するプライマリケアの現場を見ることができ、その目標を達成するため様々な形で各病院や関連施設、多職種の方々が連携を取っていることを知りました。また、在宅医療では患者さんの疾患のみに限らず社会的背景も踏まえた全人的医療が行われており、目指すべき医療を経験することができたと思います。

最後になりましたが、院内の研修を担当して頂きました藤田先生をはじめとします消化器内科の先生方、各診療所の先生方、多職種の方々、そして全ての研修のサポートをしてくださいました宗清先生や事務の方々、大変ありがとうございました。

福岡大学病院 初期臨床研修医 池内 伸光
研修時期 平成29年9月

福岡大学病院の初期臨床研修プログラムの一環として、2017年9月の1か月間、地域医療研修として出水総合医療センターを中心に野田診療所、高尾野診療所、出水保健センター、上場診療所で研修をさせて頂きました、研修医2年目の池内伸光と申します。

私は福岡市出身ではありますが、出身大学が鹿児島大学であり、また昨年度研修された先生に勧められたこともあり、出水市での研修プログラムを選択しました。出水市は何度か車で通過したことはありましたが、じっくりと腰を据えるのは初めてでした。初日に鹿児島市にもあるスーパーを見つけて懐かしく感じたのを覚えています。

野田診療所では内村先生から頸部・心臓・腹部のエコーを御指導頂きながら施行し、上部消化管内視鏡の操作もさせて頂きました。月曜日を除く平日は訪問診療に赴き、通院が困難な方々が多くいらっしゃることや、ADL低下に伴って不衛生な生活環境となり、なんとか社会資源を利用して生活できているといった状況も目の当たりにしました。野田診療所では一次救急も経験し、検査が出来ない状況での問診や身体診察、転院・転送の判断の重要性を学びました。高尾野診療所では西元寺先生、長谷川先生に御指導頂きながら初めての外来診療を経験しました。午前中に20名強の外来をこなすには病態把握や問診の時間は最低限となり、戸惑いがありました。そのような状況でも先生方は4週間に1度しか来院されない患者さんの家庭環境まで把握されており、慢性疾患の外来フォローを継続するには綿密なコミュニケーションが不可欠であると痛感しました。

上場診療所では宗清先生に御指導頂きながら、検査だけでなく搬送手段も限られる僻地医療の実際を体感し、十分な医療を提供することの難しさを学びました。地域保健の一環として出水保健センターでの研修では、保健師さんが複数人で多角的に母子を見つめて対応を協議する姿が印象的でした。

出水総合医療センターでの院内研修では循環器内科を中心に、薬剤部、臨床工学科、臨床検査科、看護部(回復期病棟)、リハビリテーション技術科、医療安全管理室、地域医療連携室で研修させて頂きました。循環器内科では楠元先生、則松先生に御指導頂き、また福岡大学の桑野先生や西川先生にもお世話になり、心不全増悪や心房細動で入院されている症例や、心臓カテーテル検査・治療も経験できました。また多職種連携として院内の様々な職種の方々から御指導頂き、普段見ることのない仕事の実際を学び、今後医師として関わっていく上での重要な知見を得られたと思います。

最後になりましたが、お忙しい中多くの時間を割いて丁寧にご指導くださった皆様方に御礼申し上げます。大学病院では遭遇しない様々な体験ができて大変有意義な研修となりました。ありがとうございました。

九州大学病院 初期臨床研修医 内藤 東一郎
研修時期 平成29年9月

九州大学病院初期研修医2年目の内藤東一郎と申します。

2017年9月の1か月間、初期臨床研修プログラムの地域医療研修として、出水総合医療センターで研修をさせていただきました。

野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、出水総合医療センターでは消化器内科を中心に研修を行いました。

各診療所では、外来での慢性疾患のフォローや検査（心エコー、腹部エコー、上消化管内視鏡）を中心に経験しました。患者さんを取り巻く環境にも触れつつ診療に携わり、自ら検査を実施し診断をする経験は大変意義深いものでした。

往診では、診療所に来るのが困難な患者さんの診療を経験しました。検査も十分に行えない状況で患者さんの表情や対話の中で診療を行い、最期の時を迎えるまでどのように関わっていくか、地域での医療の現実を考えさせられました。

院内研修では消化器内科を選択し、多くの症例を経験しました。違う施設でのやり方を経験できたのは勉強になりました。

また出水医療センターでは医療安全室、地域連携室、リハビリテーション技術科、臨床検査科などの多職種における研修もさせていただきました。私たちのオーダーが多職種を経て、結果が出る過程を経験することで、これからの診療に大きな影響を与えたと思います。また、地域での医療に限った事ではありませんが、色々な職業の方との協力により患者さんにとってより良い医療を提供できるのだと改めて感じました。

出水で地域の研修ができて本当に良かったです。

最後ですが、研修担当の宗清先生、藤田先生をはじめとする消化器内科の先生方、各科の先生方、各診療所の先生方、コメディカルの方々、職員の皆様本当にありがとうございました。

将来、自分自身が地域の医療に関わっていく際には今回の経験を糧として、多くの患者さんに健やかな生活を送って頂けるように一生懸命、医師としての職務を全うしたいと思います。

九州大学病院 初期臨床研修医 猿川 澤
研修時期 平成29年10月

九州大学病院地域医療研修プログラムとして10月にお世話になりました、研修医2年目の猿川澤(サルカワ ミオ)と申します。

昨年度出水総合医療センターで研修された先生方に勧められて、こちらでの研修を選択させていただきました。1ヶ月間という限られた期間の中で、出水総合医療センターを中心に、野田診療所・高尾野診療所・保健センター・上場診療所にて研修させていただきました。

鹿児島市内には幼い時に訪れた記憶があったのですが、出水市は今回初めてだったため研修は勿論のこと、研修外の活動も楽しみにしていました。上場高原で見たコスモス畑はとても印象に残り、秋を感じることができました。

さて、研修についてですが、すべてが目新しく印象深いものばかりでしたが、字数も限られておりますし一部分をピックアップさせていただきます。

まずは、各々5日間研修させていただいた野田・高尾野診療所についてです。野田診療所ではエコー、内視鏡などの検査を内村先生から手取り足取り指導して頂きました。また、外来診療見学では、限られた時間内での的確な問診、診察を行う大切さや1人1人に対し真摯に向き合っているからこそ内村先生と患者さんとの間の信頼関係の深さを垣間見ました。高尾野診療所では、慢性疾患の外来を経験させていただきました。今までの研修は病棟業務が中心であり初めての外来で戸惑いが大きくパニック状態の私でしたが、西元寺先生のサポートもあり何とかこなすことができました。予約外の患者さんが来院することもあるため、余裕をもって効率よく外来を回す必要があることを学びました。また、どちらの診療所も紙カルテであり、紙カルテでの診療は貴重な体験でした。

院内研修では小児科研修を中心に、看護部・臨床検査科・臨床工学科・リハビリテーション科・医療安全管理室・地域医療連携室・薬剤科などの講義や体験をさせて頂き、多くのことを丁寧に教えて頂きました。小児科では倉内先生、才田先生に大変お世話になりました。大学病院ではなかなか出会えない気管支喘息、川崎病といった common diseases を経験することができ、短い研修期間の中で将来につながる研修を行うことができたと感じております。また、各部署の講義・体験では改めて他職種の実際の現場を知ることができ、今後の医師としての生活に活かすことのできる非常に有意義なものでした。

上場診療所では僻地医療を経験し、「月に2回しか診療がないため1回1回の診療で」の限られた時間の中で体調の変化を見逃さないことの大切さを学びました。

保険センターでは、妊娠・出産・子育てで悩む人々を孤立させないよう、地域全体で母子をサポートしていく体制を学び、思っているよりも多くの職種が関わっていたことを知りました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、丁寧に指導して下さった皆様方に、重ねて御礼申し上げます。私も後輩達に出水総合医療センターでの研修を勧めようと思います。

九州大学病院 初期臨床研修医 中島 裕子

研修時期 平成29年11月

九州大学病院の地域医療として11月にお世話になりました。今まで九州北部でしか生活をしたことがなく、鹿児島県内に足を踏み入れるのは今回人生で2回目でした。知らない土地で地域研修をしたいという想いがあり、出水を選択させていただきました。不安もありましたが、宗清先生はじめ臨床研修センターの方々のおかげで一か月間楽しく生活を送ることができました。

私は第1週野田診療所、第2週高尾野診療所、第3~4週院内で研修をさせていただきました。野田診療所では、内視鏡検査や超音波検査などを丁寧にご指導いただきとても勉強になりました。また外来の陪席では、診察の仕方や患者さんへの生活指導など外来診療スキルを学ぶことができました。訪問診療では、寝たきりやまた様々な環境の中で生活している方々と接し、色々と考えさせられました。高尾野診療所では、実際に外来診察を経験し、限られた時間で必要な情報を処理することの難しさを身に持って感じることができました。また、患者さんによって考え方が違うので生活指導の仕方も様々でとても勉強になりました。保健センターでの研修は、保健師の方々の仕事を間近でみることで地域での保健所の役割や必要性を学ぶことができました。また、上場診療所にも行かせていただき、患者さんは少数ではありましたが、どこであろうと医療は必要とされており、どんな環境であろうと患者さんに対して必要な医療を提供することの大切さを学ぶことができました。

院内研修では主に消化器内科で研修をさせていただきました。藤田先生をはじめ先生方には本当にお世話になりました。上下部内視鏡検査、ESD、ERCPなど様々な手技をみることができ、大学のようには細分化されておらず、総合的な幅広い知識を必要とすることを学びました。また、胃瘻造設目的で入院となった患者さんを担当させていただき、胃瘻は高齢化がすすむ日本と深く結びついていることを学ぶことができました。その他院内の多職種研修(回復期病棟、地域医療連携室、医療安全、薬剤科、臨床検査科、リハビリテーション技術科、臨床工学科など)もさせていただき、それぞれの職種の知識の深さや大変さを感じました。また、医療はこのように幅広い職種の方々に支えられ成り立っており、連携なくして現在の医療は存在しないのだなと改めて感じることができました。

全体を通して、私が地域研修をして得たものは何だったのだろうと考えました。超高齢社会の日本の現状を垣間見たこと、かかりつけ医や在宅医療の大切さや僻地医療の必要性を学べたこと、多職種の方々と連携して医療は成り立っていることを身に染みて感じたことなど得たものは非常に多くあります。しかし、現状を知っても解決するだけの能力がないことを痛感させられました。まだまだ医師として始まったばかりの私ですが、今後この気持ちを忘れず精進していきたいと思いました。

出水での生活は本当に楽しかったです。名物のツルに癒され、市民駅伝大会では出水の方々の優しさに触れることができました。同期である藤善先生にもお世話になり、11月にこちらで研修できた私はとても運が良かったと思います。また出水に遊びに来たいです。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 藤善 卓弥
研修時期 平成29年11月

鹿児島大学病院より地域医療研修で11月にお世話になりました、研修医2年目の藤善 卓弥と申します。

私は生まれてから高校まで鹿児島市内で過ごしましたが、出水を訪れたのは確か小学校低学年ぐらいのときで、鶴を見た以外に記憶はなく、そもそも出水に対するイメージは鶴以外ありませんでした。

1ヶ月間の研修は、まずは高尾野診療所、続いて野田診療所、合間に保健所、そして医療センターにて研修させて頂きました。

高尾野診療所では、外来研修・病棟業務・訪問診療等を行いました。大学病院では外来をすることはあり得ないので、初めての外来に最初は何をしていいのか戸惑ってしまいましたが、徐々に慣れていきました。

紙カルテも初めての経験で難しかったです。また診療所という限られた資源・設備の中では、身体診察や病歴聴取がいかに大切か身をもって経験し、これからも大切にしていこうと思いました。

野田診療所では、エコー・外来見学・在宅医療等を経験しました。エコー検査に関しては、自分でやったことなく何もわからない状態でしたが、所長が一から教えてくれたので、少しは出来るようになりました。これからもスキルを磨いていきます。往診では、身体的な理由や住居の場所が原因で通院が不可能な方もいらっしゃるのので、いかに大切かを理解できました。

保健所では、生後半年の赤ちゃんの健康相談や3歳児健診に参加しました。私たちからすれば経過観察で十分な皮膚病変も、お母さんにとってはかなり気になるものだと、考え方の相違を感じ、母親の子供への愛情を感じました。あと、小児科の知識をもう一回勉強しようと思いました。

院内研修では、午前中は小児科を、午後からは他職種との連携ということで、看護部・地域連携室・医療安全管理室・薬剤科・臨床工学科・臨床検査科・リハビリテーション科などバラエティーに富んだラインナップでした。小児科を研修するのは初めてで、ハンコ注射や各種予防接種をうつところを見学させていただき、貴重な体験でした。子供なので診察する際は泣くので、その間に聴診するのは難しかったです。他職種との研修では、どのスタッフさんも優しい方ばかりで、専門とされている分野を手とり足とり教えていただき、かなりプロフェッショナルだなあと感じました。そして、彼らなしでは病院は運営出来ないことを理解し、これからもそのことを念頭に置き、感謝の気持ちとリスペクトを忘れず、仕事をすることを誓います。

最後になりましたが、宗清先生を始め、事務の方、各部署の方々、小児科のスタッフさん、保健所の方々、お忙しい中時間を割いていただき、誠に有り難うございました。この1ヶ月で学んだこと・感じたことを忘れずにこれからも人助けをしていくことを誓います。

北九州市立医療センター 初期臨床研修医 久保 雄太郎
研修時期 平成29年12月

北九州市立医療センター地域医療研修プログラムとして12月にお世話になりました、初期研修医の久保雄太郎と申します。出水総合医療センター、野田診療所、高尾野診療所、保健センター、上場診療所にて研修させていただきました。各診療所、施設の職員の方々にお世話になり、大変良い研修となりました。この場を借りてお礼申し上げます。

診療所では、外来診療、訪問診療を中心に研修させていただきました。患者は高齢者が多く、病気のコントロールのみではなく、日常生活における困った点を含めた患者背景にまで気を配っての医療を提供しているところを肌で感じることができました。

保健センターでは、研修日が3ヶ月健診の日で見学させていただきました。地域の開業医の先生による診察、保健センター職員による問診や悩み相談が行われており、なかなか普段の診療では知ることのできない保健センターの役割、業務について認識することができました。

院内研修では外科で研修させていただきました。朝の回診で創処置、外来見学、手術を中心に研修しました。現在所属している北九州市立医療センターは癌拠点病院であるため、手術の大半は悪性腫瘍の症例ばかりです。出水総合医療センターでも悪性腫瘍の手術を中心にされていましたが、交通外傷の重傷例の手術もされており大変驚きました。

最も印象深かったことが、参加させていただいた二木会でした。出水郡の医療圏に携わる先生方が集まる勉強会を行う会で、所属に関係なく交流を深める機会が定期的に行われていることが大変良いことで、地域全体でのチーム医療を感じました。

現在初期研修を行っている北九州市は、悪性腫瘍、循環器疾患、救急、慢性期というように病院毎の得意分野がはっきりしており、役割分担が比較的はっきりしている医療体制が構築されています。それとは全く違う形で医療が提供されているような地域で研修ができ、大変良い経験となりました。

最後になりましたが、1ヶ月の研修で指導して下さった先生方をはじめとしたスタッフの方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

福岡大学病院 初期臨床研修医 児島 加奈子
研修時期 平成29年12月

福岡大学病院の地域医療研修プログラムで12月の1か月間お世話になりました、研修医2年目の児島加奈子と申します。今回、出水総合医療センターを中心に、高尾野診療所・野田診療所・上場診療所・出水保健センターで研修をさせて頂き、大変お世話になりました。関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

私は出水市出身で、地域医療の研修先として出水総合医療センターがあると知ったときからこちらに研修しに来ることを楽しみにしていました。高校のころから実家を離れて一人暮らしをしていたので、10年ぶりに実家で過ごしながらか研修をすることができ、そういった意味でも有意義な1か月になりました。

私は大学病院で研修しているので、市中病院や診療所での研修は新鮮でした。高尾野診療所では、初めての外来ではありましたが、common diseaseの外来フォローや増悪時の対応などを経験することができました。野田診療所では、超音波検査や内視鏡など、数々の手技を学ぶことができ、往診にも同行させていただきました。上場診療所では、十分な検査機器も処方薬もなく、まさにへき地医療と言える現場を目の当たりにし、問診や身体所見の大切さを再確認しました。住んでいる場所や交通手段などによって、医療を満足に受けることのできない方たちがいる地方特有の問題にも配慮した医療の一端を担っているのだと感じました。院内研修では、小児科研修を中心に、医療安全管理・地域医療連携・臨床工学・看護・薬剤・臨床検査・リハビリテーションなどの講義や体験をさせていただきました。他職種の実習を行うのは、学生の時以来であり、なかなか体験することができないことが数多くあり、実際の現場を知る大変貴重な機会になりました。また、大学病院にいと、多くの専門科が存在するため、専門外のことはコンサルトや検査オーダーし、実際の検査はお任せするということが殆どになります。今回の地域医療では、様々な疾患に対応し、検査も自ら行うという理想的ですがなかなか難しい医療を見ることができたように思います。数か月後には研修医が終わり、専門分野に進んでいきますが、私も得意不得意に左右されないよう、積極的に多くのことを学んでいかななくてはならないと感じました。

最後に、大変お忙しい中、丁寧に指導して下さった皆様に重ねて御礼申し上げます。今までの研修では学べなかったことを、短い間ではありましたが数多く経験することができ、大変貴重な1か月を過ごすことができました。この1か月間で学んだことを今後の医師としての人生に生かしていきたいと思ひます。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 伊比 裕太郎
研修時期 平成30年1月

鹿児島大学病院における地域医療研修として1ヶ月間お世話になりました、初期研修医2年目の伊比裕太郎と申します。1ヶ月という短い期間でしたが、出水総合医療センターを中心に高尾野・野田の各診療所や出水保健センター、上場診療所と様々な場所で研修させていただきました。お世話になりました先生方ならびに関係者の皆様にはこの場を借りて御礼申しあげます。

私の出身は鹿児島市内で、生まれてからこの方ずっと鹿児島市内で育ってきました。これまで出水の地で生活したことはありませんでしたが、以前出水で研修をしてきた先輩や同期の研修医の先生方から、出水での地域医療研修はいろいろと学ぶことが多く有意義であるという話を数多く耳にしたためこちらで研修をおこなうことを決めました。

各場所での研修についてですが、まず高尾野診療所では実際に外来診療を経験させていただきました。限られた時間内で数多くの患者さんを診察し、処方までこなさなければいけない大変さを実感でき大変貴重な経験になりました。外来診療をおこなう上では医学的知識だけでなく、上手な時間の使い方や、丁寧でありながら的をしばった診察スキルが必要だと再認識できたように思います。

野田診療所では内視鏡やエコーを実際にご指導いただき、外来診療における様々なノウハウやコツまでいろいろと教えていただきました。これまであまり意識してこなかった視点からの話ばかりで勉強になることばかりでした。

出水保健センターでは母子健康相談、3歳児健診を見学させていただきました。地域全体で母子をサポートしていく体制について学ぶことができ、大変勉強になりました。

上場診療所では本物のへき地医療というものを体験することができました。月2回という限られた診療体制であり、私たちが普段身を置いている恵まれた医療環境や、その中でおこなう充実した診療との違いについて考えさせられる大変貴重な経験となりました。

出水総合医療センターの院内研修では、腎臓内科を中心に看護・薬剤科・臨床工学・臨床検査・地域医療連携室・リハビリテーションなどの講義や体験をさせていただきました。すでに将来腎臓内科医としてやっていくことを決めていることもあり、腎臓内科での研修は将来の自分に直接つながる大変有意義なものばかりで、楽しく研修させていただきました。各部署での研修では多職種の仕事現場を経験することができ、多職種で作り上げていくチーム医療の重要性を再認識できました。

最後になりますが、今回大変お忙しい中時間を割いて丁寧にご指導してくださった方々に改めて深く感謝申し上げます。この1ヶ月間の貴重な経験を今後の鹿児島での医師人生に活かしていければと思います。本当にありがとうございました。

九州大学病院 初期臨床研修医 石田 彩乃
研修時期 平成30年1月

平成30年1月に研修をさせて頂きました、研修医2年目の石田彩乃と申します。
地域医療研修先として多くの選択肢がありましたが、鹿児島はこれまで訪れる機会があまりなかった
ので出水総合医療センターを第一希望とさせて頂きました。出水市は博多から意外と近く、自然
豊かなところでした。研修初日に鶴の飛来地に連れて行って下さり、想像以上の光景に大変驚きま
した。病院に戻り、院内では皆様から気持ちの良い挨拶をして頂き、出水に来ることが出来て良か
ったなと思いました。

私の研修はまず野田診療所から始まりました。外来ではご高齢ですが比較のお元気な患者様が
多く、長年診察されていらっしゃる内村先生とのやり取りはとても温かいものでした。またエコーや
内視鏡検査など、これまで実際に行う機会が殆どなかったので非常に勉強になりました。高尾野診
療所では外来を初めて行いました。限られた時間で問診を行い、必要な処置・検査を挙げるなど、
患者背景を考えながら診療を行うことの難しさを実感しました。今後外来を行う上で必要となるス
キルを西元寺先生より教えて頂き、貴重な経験となりました。

往診・上場診療所では多くの高齢者が不安を抱えながらお一人で生活されており、私達は医療だ
けでなく様々な面でのサポートを求められているのだと感じました。私達は病気を診るのではない、
という初心を再度認識することが出来ました。

院内研修では小児科を選択し才田先生・倉内先生、優しい二人の先生方の元で研修させていただ
きました。季節柄、発熱や下痢による脱水のため入院となった症例が多かったです。大学病院では
外来初診から退院までを診る機会は殆どないので、回復し大きく手を振りながら退院される患者さ
んを見て、元気を頂きました。ワクチン接種を見学したり、プライマリケアの重要性も学ぶことが
出来ました。

ちょうど大河ドラマ「西郷どん」の放送が始まったこともあり、今年鹿児島は注目の観光地でし
た。出水も鶴が飛来する時期でしたし、休日に訪れた桜島や霧島も多くの観光客で賑わってありま
した。また鹿児島は温泉の泉質が豊富で様々な温泉を楽しむことが出来ました。1月は雪がしんしん
と降る寒い日もあり、温泉が本当にありがたかったです。

最後になりましたがお忙しい中、熱心に指導してくださり貴重な経験をさせて頂きました先生
方、チーム医療の重要性を教えて下さいましたコメディカルの方々に深くお礼申し上げます。出水
での経験を今後の診療に生かしていきたいと思っております。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 小迫 拓矢
研修時期 平成30年2月

2月に地域医療研修としてお世話になりました、鹿児島大学病院の小迫拓矢と申します。約1カ月の間、出水総合医療センターを中心に、野田診療所、高尾野診療所、出水保健センター、上場診療所等で研修させていただきました。もともと鹿児島市内出身で、出水に来たのは20年以上前に鶴を見に来て以来となりました。

野田診療所では、胃カメラやエコー検査、外来見学などにつかせていただきましたが、特に往診診療に力を入れました。往診患者さんそれぞれの生活背景や周囲の方々からのサポートをどのように得ているか見ることができました。また、往診患者さん一人ひとりが診察を終えるごとに、とても丁寧にお礼を述べてくださった点も印象的でした。

高尾野診療所では、主に外来診療をさせていただきました。慢性疾患をもった患者さんたちの定期受診ではありましたが、限られた時間の中で患者さんの1カ月間の様子や現在困っていることや悩みなどをピックアップして聴取することはなかなか難しい場面もありました。野田でも高尾野でも、往診や外来診療で初めてお会いした方々でしたが、皆さん診察が終わった後には「これから頑張るね」など励ましの言葉を親切にかけてくれることもあり、とても温かみのある地域だと分かりました。

出水保健センターでは、母子健康相談と3歳児検診を見学させていただきました。当然ですが、子供たちの中でも様々な個性があり、それに悩む親に寄り添ってあげる保健師さんたちの姿をみることができました。

上場診療所では、月に2回という診療のなか、さらに限られた医療資源のなかで診察しなければならず、患者さんたちの体調変化に特に気を配ったりと医師自身のスキルの必要性を感じました。出水総合医療センターでは、脳神経外科を中心に研修し、その合間に多職種連携を学ぶ機会も設けていただきました。脳梗塞や脳出血などの脳卒中で救急搬送されてくる多くの患者さんに出会い、急性期の治療からその後の慢性期の治療を通して回復していく姿を見ることができました。また、出水の地域では病院間で一次救急(外来レベル)と二次救急(外来～入院レベル)の住みわけがある程度行われていて、患者さんからの電話相談でどこの病院を受診すればいいかアドバイスしている点も印象的でした。

最後になりましたが、大変お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導してくださった多くの方々に深くお礼申し上げます。今後、医師として多くの時間を歩んでいきますが、この出水での1か月間の経験をこれからは活かしていけるよう頑張っていきたいと思っております。

九州大学病院 初期臨床研修医 哲翁 華子
研修時期 平成30年2月

九州大学病院初期研修医2年目の哲翁 華子と申します。

2018年2月の一ヶ月間、初期臨床研修プログラムの地域医療として、出水総合医療センターで研修をさせていただきました。

高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センター施設、出水総合医療センターでは外科を中心に研修を行いました。

各診療所では、外来での慢性疾患のフォローや検査（心エコー、腹部エコー、上消化管内視鏡）を中心に経験しました。患者さんを取り巻く環境にも触れつつ診療に携わっていたのが印象的でした。

往診では、診療所に来るのが困難な環境にいる患者さんの診療も経験しました。日頃は簡単にオーダーできる検査も十分に行えない状況で、患者さんに必要なことは何かを総合的に判断し、医療を提供することは非常に難しい経験でした。

院内研修では外科を選択し、急性虫垂炎や胆石症など多くの症例を経験しました。良性疾患が多い中、胃癌や直腸癌等の悪性の手術症例もあり、地元で根治手術を受けることが出来ることは地域住民の安心や負担軽減につながっているのではないかと実感しました。また、違う施設でのやり方を見られたのは勉強になりました。

保健センターでは、母子の健康、その他多くの悩みに関する相談に来るのを待つのではなく悩みを抱えている人を見つけて相談にのるよう心がけている取り組み方も非常に印象に残っています。行政と地域住民が、非常に近いところで関わり合い、健康を維持・増進させているのだと実感できました。

また出水医療センターでは医療安全室、地域連携室、リハビリテーション技術科、検査室などの多職種における研修もさせていただきました。限られた人材、医療資源の中で安全で適切な医療を提供するには、個々の能力が十分に備わっていることに加え全ての職種の方々や他科の先生との連携が必要不可欠と考えられました。多職種の仕事内容を研修出来たことは、医療の中で自分が果たす役割を再確認できる機会ともなりました。

私は、4月より地元長崎で外科研修医としてスタートすることになります。出水での経験を生かし、自分にできることは何か、その場所で必要とされているものは何かを常に考えながら日々勉強して行きたいと思います。

最後に、地域研修担当の宗清先生、花田先生をはじめとする外科の先生方、各科の先生方、各診療所の先生方、コメディカルの方々、職員の皆様本当にありがとうございました。

北九州市立医療センター 初期臨床研修医 小市 裕太
研修時期 平成30年3月

初期臨床研修医2年目の小市裕太と申します。私事で恐縮ですが、平成30年4月からは旭川医科大学外科学講座心臓大血管外科学分野での勤務となります。鹿児島と北海道では距離的には遠いですが、もしかしたら、一緒に仕事や勉強をする機会があるかもしれません。引き続き、宜しくお願い申し上げます。

さて、地域医療を学ぶために野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、出水総合医療センターにおいて研修を行いましたので、以下簡潔に感想を述べます。

野田診療所では、内村先生のご指導の下、主に外来見学と画像検査（経胸壁心エコー、腹部エコー、上部消化管内視鏡検査）を行いました。特に印象に残ったのは、内村先生と患者さんとの信頼関係の深さでした。また、臓器別の専門家としての枠を越えて、新たな診療技術を取得し、それを実践しようと挑戦する姿勢に感銘を受けました。

高尾野診療所では、外来を行う機会を頂きました。西元寺先生のご厚意に感謝申し上げます。臨床において各疾病へ対応するだけでは不十分であり、患者さんの家庭環境・職場環境などを踏まえた全人的な医療を提供することの重要性について改めて考えさせられました。また、訪問診療に長谷川先生と一緒にさせて頂き、患者さんのご自宅での長期療養の現場を経験しました。

上場診療所では上場地域住民の健康を守るという市立病院としての「公共性」を、出水保健センターでは母親を家庭で孤立させずにフォローする地域の取組みを知ることができました。

出水総合医療センターでは、腎臓内科の吉嶺先生の下で研修を行いました。吉嶺先生におかれましては、日常業務で多忙な中で院内研修を引き受けて頂き、心より感謝申し上げます。最も印象的だったのは、血行動態が安定している患者さんに対する短時間でのダイナミックなボリュームコントロールでした。今回の腎臓内科での経験を将来の診療に生かしたいです。また、多職種連携として、医療安全管理室、看護部、地域医療連携室、薬剤科、リハビリテーション技術科、臨床検査科、臨床工学科の職員の方々には大変お世話になりました。

地域医療のプログラムとは別に、勉強会（二木会、三水会）への参加を通して院外の先生方と交流する機会にも恵まれました。

研修を通じてお世話になった全ての方々に御礼申し上げます。

最後に、地域医療研修の全体を統括された臨床教育研修センター長の宗清先生には、この場を借りて重ねて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。